

1

[解答解説のページへ](#)

実数 x, y が $|x| \leq 1$ と $|y| \leq 1$ を満たすとき、不等式

$$0 \leq x^2 + y^2 - 2x^2y^2 + 2xy\sqrt{1-x^2}\sqrt{1-y^2} \leq 1$$

が成り立つことを示せ。

2

解答解説のページへ

直線 $l: y = kx + m$ ($k > 0$) が円 $C_1: x^2 + (y-1)^2 = 1$ と放物線 $C_2: y = -\frac{1}{2}x^2$ の両方に接している。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) k と m を求めよ。
- (2) 直線 l と放物線 C_2 および y 軸とで囲まれた図形の面積を求めよ。

3

解答解説のページへ

平面上に長さ 2 の線分 AB を直径とする円 C がある。2 点 A, B を除く C 上の点 P に対し、 $AP = AQ$ となるように線分 AB 上の点 Q をとる。また、直線 PQ と円 C の交点のうち、 P でない方を R とする。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) $\triangle AQR$ の面積を $\theta = \angle PAB$ を用いて表せ。
- (2) 点 P を動かして $\triangle AQR$ の面積が最大になるとき、 \overrightarrow{AR} を \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{AP} を用いて表せ。

1

問題のページへ

まず、 $|x| \leq 1$, $|y| \leq 1$ より、 $x = \cos \alpha$, $y = \cos \beta$ ($0 \leq \alpha \leq \pi$, $0 \leq \beta \leq \pi$) とおくことができ、さらに、 $P = x^2 + y^2 - 2x^2y^2 + 2xy\sqrt{1-x^2}\sqrt{1-y^2}$ とすると、

$$\begin{aligned} P &= \cos^2 \alpha + \cos^2 \beta - 2\cos^2 \alpha \cos^2 \beta + 2\cos \alpha \cos \beta \sqrt{1-\cos^2 \alpha} \sqrt{1-\cos^2 \beta} \\ &= \cos^2 \alpha (1 - \cos^2 \beta) + \cos^2 \beta (1 - \cos^2 \alpha) + 2\cos \alpha \cos \beta \sqrt{\sin^2 \alpha} \sqrt{\sin^2 \beta} \\ &= \cos^2 \alpha \sin^2 \beta + \cos^2 \beta \sin^2 \alpha + 2\cos \alpha \cos \beta |\sin \alpha| |\sin \beta| \\ &= \cos^2 \alpha \sin^2 \beta + \sin^2 \alpha \cos^2 \beta + 2\cos \alpha \cos \beta \sin \alpha \sin \beta \\ &= (\cos \alpha \sin \beta + \sin \alpha \cos \beta)^2 = \sin^2(\alpha + \beta) \end{aligned}$$

すると、 $0 \leq \alpha + \beta \leq 2\pi$ より $0 \leq P \leq 1$ となり、

$$0 \leq x^2 + y^2 - 2x^2y^2 + 2xy\sqrt{1-x^2}\sqrt{1-y^2} \leq 1$$

[解説]

初めは、 $P = (x\sqrt{1-x^2} + y\sqrt{1-y^2})^2 + (x^2 - y^2)^2$ と変形したものの、右側の不等式がうまく示せません。後ろ髪を引かれつつも、この式変形を放棄し、式の形をみて、 $x = \cos \alpha$, $y = \cos \beta$ とおきました。すると、 $P = (x\sqrt{1-y^2} + y\sqrt{1-x^2})^2$ という変形に気づきます！ 運・不運が濃厚に反映される問題です。

2

問題のページへ

(1) 放物線 $C_2: y = -\frac{1}{2}x^2$ に対して、 $y' = -x$ となるので、点

$(t, -\frac{1}{2}t^2)$ における接線 l の方程式は、

$$y + \frac{1}{2}t^2 = -t(x - t), \quad y = -tx + \frac{1}{2}t^2 \dots\dots\dots (*)$$

(*) から、 $l: 2tx + 2y - t^2 = 0$ と変形し、さらに l は円 $C_1: x^2 + (y - 1)^2 = 1$ にも接するので、

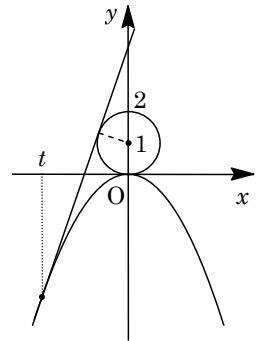
$$\frac{|2 - t^2|}{\sqrt{4t^2 + 4}} = 1, \quad (2 - t^2)^2 = 4t^2 + 4, \quad t^2(t^2 - 8) = 0$$

ここで、 $l: y = kx + m$ ($k > 0$) から、 $k = -t > 0$ となるので、 $t = -2\sqrt{2}$

(*) に代入すると、 $l: y = 2\sqrt{2}x + 4$ となり、 $k = 2\sqrt{2}$, $m = 4$

(2) 直線 l と放物線 C_2 および y 軸とで囲まれた図形の面積を S とすると、

$$\begin{aligned} S &= \int_{-2\sqrt{2}}^0 \left(2\sqrt{2}x + 4 + \frac{1}{2}x^2 \right) dx = \frac{1}{2} \int_{-2\sqrt{2}}^0 (x + 2\sqrt{2})^2 dx \\ &= \frac{1}{6} [(x + 2\sqrt{2})^3]_{-2\sqrt{2}}^0 = \frac{8}{3}\sqrt{2} \end{aligned}$$



[解説]

円と接線、および面積計算についての基本的な問題です。なお、(1)の解法についてはいろいろ考えられますが、設問(2)を参照すると、まず放物線の接点を設定するのがよいということがわかります。

3

問題のページへ

- (1) $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のとき, AB が直径なので $\angle APB = \frac{\pi}{2}$ より,

$$AP = AB \cos \theta = 2 \cos \theta$$

すると, 条件より, $AQ = 2 \cos \theta$, $BQ = 2 - 2 \cos \theta$

また, $\angle AQP = \frac{1}{2}(\pi - \theta) = \frac{\pi}{2} - \frac{\theta}{2}$ から,

$$PQ = 2AQ \cos\left(\frac{\pi}{2} - \frac{\theta}{2}\right) = 4 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2}$$

ここで, 方べきの定理より, $PQ \cdot RQ = AQ \cdot BQ$ となり,

$$4 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2} \cdot RQ = 2 \cos \theta (2 - 2 \cos \theta), \quad RQ = \frac{1 - \cos \theta}{\sin \frac{\theta}{2}} = \frac{2 \sin^2 \frac{\theta}{2}}{\sin \frac{\theta}{2}} = 2 \sin \frac{\theta}{2}$$

そこで, $\triangle AQR$ の面積を S とすると, $\angle AQR = \pi - \angle AQP = \frac{\pi}{2} + \frac{\theta}{2}$ より,

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot 2 \cos \theta \cdot 2 \sin \frac{\theta}{2} \cdot \sin\left(\frac{\pi}{2} + \frac{\theta}{2}\right) = 2 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} \\ &= \cos \theta \sin \theta = \frac{1}{2} \sin 2\theta \end{aligned}$$

- (2) (1)より, S が最大になるのは, $\sin 2\theta = 1$ すなわち $\theta = \frac{\pi}{4}$ のときである。

このとき, $PQ : QR = 4 \cos \frac{\pi}{4} \sin \frac{\pi}{8} : 2 \sin \frac{\pi}{8} = \sqrt{2} : 1$ となり, 点 R は線分 PQ を $(\sqrt{2} + 1) : 1$ に外分することより,

$$\overrightarrow{AR} = \frac{-\overrightarrow{AP} + (\sqrt{2} + 1)\overrightarrow{AQ}}{(\sqrt{2} + 1) - 1} = -\frac{1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2} + 1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AQ}$$

また, $AQ = 2 \cos \frac{\pi}{4} = \sqrt{2}$ から, $\overrightarrow{AQ} = \frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AB}$ となるので,

$$\overrightarrow{AR} = -\frac{1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2} + 1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AB} = -\frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2} + 1}{2}\overrightarrow{AB}$$

[解説]

よく見かける構図の三角関数の図形への応用問題です。上記以外にも, いろいろな解法が考えられます。たとえば, 点 A を原点, 点 B を x 軸上の点として xy 平面で, ということも脳裏に浮かびましたが, 計算量を考えて……。

